サカタのタネ
PASSION in Seed

NEWS RELEASE

2026.11.25

青枯病耐病性の台木トマト「グランブレイブ®」の種子発売

サカタのタネトップクラスの耐病性と初期草勢の強さを両立した新品種



サカタのタネは、台木トマトの新品種「**グランブレイブ**」の種子を営利生産者向けに 2027 年 5 月下旬から発売します。同品種は当社台木トマト品種の中でもトップクラスの極めて強い青枯病への耐病性（※1）と、栽培初期から草勢を強く維持できる特性を併せ持ちます。

トマトにおいて台木を使用する主な理由は（1）高温期に問題となる青枯病や低温期に問題となる褐色根腐病への耐病性付与、（2）草勢を維持するためのスタミナ向上、の 2 点です。特に青枯病は、温暖化や長年の連作のため、重要度が増しています。「**グランブレイブ**」は青枯病に極めて強い耐病性を持つほか、褐色根腐病に対しても強度の耐病性を備え、かいよう病にも耐病性があります。一方、青枯病耐病性に優れる台木トマト品種は草勢が弱い傾向にありましたが、「**グランブレイブ**」は栽培初期から後半まで草勢を強めに維持できます。夏秋トマトや越冬長段・冬春トマトはそれぞれ厳寒期、高温期が定植時期で、いずれも生育環境が厳しい時期です。そのため、生産者の栽培方法にもよりますが、植え付け後の活着や初期生育を支えるため、初期草勢の強さが重視される傾向があります。特にミニトマトの場合、初期から草勢が強いことで花数を維持しやすい、果実サイズが大きくなりやすいといったメリットがあります。

台木トマト「**グランブレイブ**」の種子の希望小売価格（※2）は、1,000 粒入り袋で 16,500 円（税込）です。全国の JA、種苗店を通じて販売します。

● 株式会社 サカタのタネ 〒224-0041 横浜市都筑区仲町台 2-7-1
● https://corporate.sakataseed.co.jp

※1 抵抗性と耐病性：当社は病害を抑える性質をその程度により「抵抗性」と「耐病性」という言葉で表しています。発病条件（温度、湿度、病原体の密度など）の影響を受けにくく安定したものに「抵抗性」を用いています。「抵抗性」は基本的には発病しませんが、発病を助長する厳しい条件や病原菌のレース分化・変異により発病する場合もあります。「抵抗性」に比べ発病条件の影響を受けやすいが、感染しても発病の程度が軽かったり、栽培する上で問題になりにくいものには「耐病性」を用いています。
※2 価格はすべて希望小売価格（税込）です。価格の自主的な決定を拘束するものではありません。

【報道用参考資料】

■ミニトマトでより強みを発揮、初期草勢が強い「グランブレイブ」

台木トマト品種では従来、青枯病や褐色根腐病への耐病性が重視されてきましたが、近年は猛暑や栽培の長期化などの影響で、草勢の強い（スタミナのある）品種を求める声が高まっています。

しかし、大玉トマトでは初期の草勢が強すぎると、栽培方法によっては必要以上に葉や茎が大きく育ったり、果形が乱れたり（空洞果が発生するなど）するため、どの程度の草勢の強さを求めるかは生産者の栽培スタイルや栽培地の環境によって好みが分かれます。

一方で、ミニトマトでは、初期草勢の強い台木が収量の確保に寄与します。大玉トマトと比べて草勢が強くても果実の形状が乱れにくく、さらに草勢が強いことで果実が大きくなりやすいほか、花数を維持しやすいというメリットがあるためです。

大玉トマトでは、生産者の栽培スタイルに応じて、初期草勢が中程度の「グランシールド」を選択できます。一方、ミニトマト生産者にとって「**グランブレイブ**」は、耐病性と収量性（初期草勢の強さ）を両立した使いやすい台木品種となります。

■サカタのタネ　台木トマトの特性一覧

品種名	抵抗性・耐病性の種類（N は耐虫性）										草勢
	N	F-1	F-2	F-3	J-3	V-1	V-2	K	B	Cmm	
グランブレイブ	□	◎	◎	◎	◎	◎	◎	9	10	○	やや強 （特に初期）
グランシールド	□	◎	◎	◎	◎	◎		9	10	○	やや強
アシスト	□	◎	◎	◎	◎	◎		6	8	○	強
バックアタック	□	◎	◎	◎	◎	◎	◎	6	8		やや強
ブロック	□	◎	◎	◎	◎	◎		6	6		やや強
マグネット	□	◎	◎		◎	◎		5	6		強

N:ネマトーダ　F-1:萎凋病レース１　F-2：萎凋病レース２　F-3：萎凋病レース３　J-3：根腐萎凋病　V-1：半身萎凋病レース１　V-2：半身萎凋病レース２

K:褐色根腐病　B:青枯病　Cmm:かいよう病

耐虫性:□　抵抗性:◎　耐病性:耐病性の程度:弱い　1　⟷　10　強い　○中強

※耐虫性・抵抗性は環境条件（温度、湿度、病原体の密度など）の影響を受けにくい安定したものですが、レース分化などにより、発病する恐れがあります。

※耐病性は環境条件によって発病することがあります。褐色根腐病（K）、青枯病（B）は耐病レベルを 1(弱)⇔10(強)として示しています。

（2026 年 4 月現在）。

なお、耐病性の「10」の数値は抵抗性を示すものではありません。

※表の数値は自社研究農場での試験結果であり、圃場により差が出ることがあります。